

ICMT2012 in harbin 国際学会

博士前期課程 1年 重政 拓海

平成 24 年 6 月 25 日(月)~28 日(金)にかけて、中国のハルビン工科大学で International Conference on Maritime Technology 2012 (ICMT2012)が開催されました。この学会は、グリーンシップ技術や海洋工学システム、海洋環境など海洋工学に関係する幅広い分野の研究に携わる研究者が様々な国から集まり、研究発表や意見交換をする会であります。大阪府立大学からは深沢先生が座長として、池田研究室の李さん、阪本君、深沢研究室の向井君、柴原研究室の濱田君、僕は発表者として参加してきました。

24 日の昼頃に関空を出発し、北京を経由した後ハルビンに降り立ちました。ハルビンは中国本土の北東部(ロシアに隣接する省に属する)に位置するため、冬場は氷点下 20 度以下にもなるような寒い都市であるけれど、夏場の短期間のみ平均最高気温が 30 度近くまで上がるらしく、学会の日程はちょうどその時期と被っていました。それに加えて、冷房の備わっている建物が少ないハルビンでの 6 日間は日本を出発した頃よりも暑く感じました。

25 日、学会一日目。

午前中は学会参加者の集合写真を撮ったのち、3 名の教授の発表を聞きました。そして、李さんの知り合いの方々に大学構内にある寺院を案内してもらいました。ここには、学業成就を願って多くの受験生が祈りに来るらしく、孔子に関する展示物がたくさんありました。

午後からはこの日府大で唯一の発表者阪本君の発表や興味のある発表を数件聞き、次の日の発表に向けて雰囲気を感じました。そして、晩はホテルにてバンケットがあり、琴の演奏や食べ切れないほどの料理でもてなされました。ハルビンで有名とされるハルビンビールや変わった中華料理など初めて口にするものばかりでした。また、様々な国の研究者の方々と話すことができたり、同い年のハルビン大学の学生と仲良くなれたり、とても楽しい時間になりました。この後仲良くなったハルビン大学の学生が、寝間着になるものを買いたい(ホテルになかったため)という僕のわがままにに応じて市街地を案内してくれることになりました。市街地までは車で 20 分ほどと結構距離があるためタクシーで行く予定だったのですが、ハルビン大学の学生 3 人と阪本君と僕の 5 人だったためタクシーには乗り切れずバスで行くことにしました。現地のバスは 1 人 1 元(約 10 円)ととても安い反面、かなり多くの人に乗る上冷房が備わっていないという劣悪な環境であるため、彼らも減多に乗ることがないと言っていました。さらに帰りのバスは終バスだったため、人が身動きできないほど詰められている上、運転手さんの機嫌が悪く運転がとても荒かったため無事に帰れるか心配になるほどでした。(笑)なにはともあれ、欲しかったジャージも買い、夜の市街地を観光もでき、それに加えて一生経験することがなかったかもしれない中国でのバス乗車という体験ができたので良かったです。

このあと、ホテルに帰り次の日の発表の練習を遅くまでやって寝ました。



大学構内寺院にて



バンケットの料理



ハルビン大学の学生と

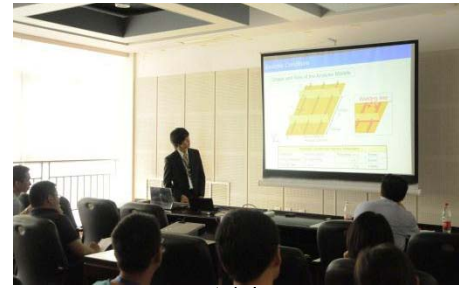


聖ソフィア大聖堂にて

26日、学会二日目。

この日は、府大の残り4人の発表がありました。直前まで練習したかいもあり、練習通りの発表ができました。質問対応はだいたいの返答はできたけれど、もっと明確に英語を聞き取りすらすら返答できるようになりたいと終わった後強く感じました。

この日は発表の疲れと終わった安堵からかホテルに戻ってすぐにボタンキューしてしまいました。



発表中



餃子のお店



ハルビン市街地にて

27日、学会三日目。

三日目は学会発表が午前中までだったため、最後まで聞いた後、大学内にある船舶博物館に行きました。ここには数多くのリアリティー溢れる模型が飾られていて、タンカーやバルクキャリア、PCC はもちろんのこと、客船や海洋構造物、潜水艦や空母などもあり非常に興奮させられました。昼からは李さん主動の元、学生5人で市街地に出かけました。昼食は餃子屋さんでたくさんのお水餃子、蒸し餃子を食べ、その後お土産を買いにお店を回りました。帰りは仕事帰りで車通りが激しく、タクシーを拾えなかったので一日目に経験したバスで帰ることにしました。中国出身の李さんでさえもこの時がバスに乗るのが初めてだということにはとても驚きました。相変わらずバスの中はぎゅうぎゅうでしんどかったです。

28日、学会四日目。

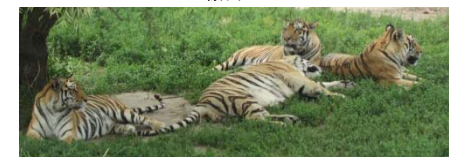
最終日はハルビンの観光に連れて行ってもらいました。一日目、三日目にも行ったロシア正教会の聖ソフィア大聖堂(現在は建築芸術館として公開)の見学や、トラ園で間近にトラを見たり、太陽島ではリス園でリスに餌をあげたりもしました。また、この市内観光の間にハルビン大学の学生やノルウェー人の学生、エジプト人の学生ととても仲良くなり、いろいろな話ができ楽しかったです。



太陽島にて

今回の国際学会を通して、普段なかなか使う機会のない英語を使って研究発表や日常の会話、他愛のない話などができ貴重な経験をさせて頂きました。また、日本にいて当たり前だと思っていたことが中国では通らなかつたり、以前訪れた台湾とも異なる点があったりと考えさせられることが多い4日間でした。

最後に、このような機会を与えてくださいました柴原先生、現地でお世話になりました深沢先生、日本を出発するときから帰ってくるまでの6日間ずっとお世話になりました李さんに深く感謝申し上げます。



現地の観光客と仲良くなった二人と